

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立 今福小学校	亀井 直規
学校所在地		
〒 640-0044		
tel 073(424)6101	fax 073(424)6102	
担当者名		担当教科
貴志 優太 中井 理恵		6年担任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>児童数178名。児童数は年々減少しているが、地域内での交流が多く、学校教育に教育的な保護者や地域の方々が多い。本校は和歌山市の体育科の研究指定を受け、研究を進めている。本校では年間を通してたてわり活動を行っているので、児童館では学年を越えた関わりがある。そのため、異学年楽しく遊んだり、共に学んだりすることができている。6年生は「リーダー」として学校を率いる存在として成長し、それを次の学年が引き継ぎ、6年生を中心によりよい学校を作っていこうという雰囲気学校全体にある。</p> <p>6年生以外は単級の学級で、大勢の人の前や慣れない場での経験が少なく、引っ込みがちな児童が多いことは課題の一つである。本校の所在地は和歌山市の中心部に位置し、校区の土地を住宅がほとんどを占めるため、自然はとても少ない。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 41名	6名 職員 3名	高野町中央公民館 高野山奥院
実践研究テーマ		
友だちとかかわり合い、ともに高め合う子どもたちの姿を求めて		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	世界遺産！高野山 ～学んだことを新聞にまとめよう～	
〔キーワード〕 世界遺産学習 情報活用能力 高野山		
<p>〔単元目標〕</p> <p>世界遺産について興味をもち、その中から課題を決め、調べ、まとめることができる。</p> <p>世界遺産について調べ、学んだことと高野山を関連付けて疑問や課題をもち、現地学習を通して世界遺産（高野山）について理解を深めることができる。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体	10 時間	（「 世界遺産、高野山について、調べたことをまとめよう 」 6時間 ）
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
・和歌山県世界遺産センター 次世代育成事業（現地学習等）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1.世界遺産や高野山について興味があるものを調べよう。	・これまでの学習で学んだことや高野山についての動画などから2、3点に絞って調べさせる。	(関心・意欲・態度) (課題設定の能力) 観察
2	2.調べたことを新聞にまとめていこう。	・絵やイラスト、写真を用いながら新聞にまとめさせる。 ・難しい漢字や表現はわかりやすく書かせる。	(情報活用能力) 観察・新聞
3	3.現地で実際に世界遺産を体感し、学ぼう。	・講座では自分たちが調べたことを再確認しながら聞くようにする。 ・現地学習でも姿見の井戸や武将の墓など事前に調べたことと合っているかを確認させる。	(情報活用能力) 観察・発言
4	4.現地で見てきたことや聞いてきたことを新聞に付け加え、まとめよう。	・自分だけの新聞にするために感想や実際に行って思ったことなどを書かせる。	(学び方、ものの考え方) (課題設定の能力) 観察・新聞
5	5.自分の作った新聞を紹介しよう。	・言いたいことを端的に伝えられるようにする。 ・友達の発表を聞いて、初めて聞いたことや知ったことをワークシートに書かせる。	(学び方、ものの考え方) ワークシート・観察 自己評価
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果 課題を個人で設定することで、人に頼ることなくそれぞれの調べたいことをまとめることができた。それを共有することで同じ時間数を全員で学習していくよりも多くの知識を得ることができた。また、その知識をもった中で高野山に対する学習に取り組むことができた。世界遺産全般についての知識、高野山についての歴史を学ぶことができた。</p> <p>課題 現地学習で高野山の歴史を感じることができ、歴史の重みを肌で感じることはできていたが、世界遺産に関わる人たちの思いまで踏み込んで考えさせることができなかった。事前学習で知識だけでなく、世界遺産を守っている人たちやそこに暮らしている人たちの思いについても考えさせるべきであった。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産については5年生の時に社会科で学習していたこともあり、事前に世界遺産について疑問をもち、調べ、それを共有することができていたので、見学当日の「世界遺産講座」は、自身の学習の振り返りも兼ねながら話を聞くことができていた。たくさんの知識を得ることもできたが、自分たちの足で歩き、目で見ると高野山の魅力について肌で感じることはできたことが何よりの学習であった。子どもからすれば、果てしない距離を歩いて高野山に登って来ていたことに驚き、世界遺産の規模の大きさを、壮大さを感じることはできた。そして、それが和歌山にあること、大切にしていかなければならないことを少しは感じていたように思う。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>なかなか世界遺産に触れる機会がないので、来年度以降も続けてほしいです。現地ガイドさんのお話も高野山のことだけでなく、有名な武将の逸話までお話して下さっていたので、子どもたちも大変興味深く話を聞くことができていました。和歌山県世界遺産マスターさんの数にも驚きました。しかし、グループによっては子どもたちには説明が少し難しすぎた方もおられたようです。</p>			

様式 2

平成30年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

○高野山には色々な武将や企業の墓があった。コーヒーやロケット、ヤクルトなどの像もあってびっくりした。世界遺産マスターの説明がとてもわかりやすかった。楽しい経験ができた。

○高野山に行って数えきれないほどのお墓があってびっくりした。中には自分が知っている武将もいて驚いた。姿見の井戸をのぞく時や三年坂を登るときはゾクゾクしたが、井戸に映った時や登りきった時はほっとした。

○世界遺産マスターさんにお話を聞かせてもらいながら高野山の中を歩いた。ふつうはお墓に花を供えるが、高野山では「高野まき」という葉をお供えする方が多いことにびっくりした。

○世界遺産マスターの方と一緒にいった奥之院では、供養塔の作った時代や、どうやって高い供養塔をのせるかなどを説明してくれた。また、覚鑿坂の由来も教えてくれ、すごく物知りだなと思った。台風などの災害で破壊されているところをどうするのかという会話もしてとても勉強になった。

○高野山には、歴史上の人物たちのお墓がたくさんあることを初めて知った。一番驚いたのは、織田信長のお墓があったことだ。また今度高野山へ行ったときは、もっともっと有名な人のお墓を見つけてみたいと思った。

○世界遺産マスターさんと一緒に、奥之院を歩いているとき、お墓の説明をしてくれたり、高野山についてのクイズを出してくれたりしたので、見学はとても楽しかった。クイズ形式でいろいろなことを知れたのでとても勉強になった。

○弘法大師御廟の前を通ったとき、とても心が落ち着いた気がした。灯籠堂の中には、たくさんの身代わり大師が並んでいて、たくさんの人たちがお参りに来ていることが分かった。

○灯籠堂の中で空海の大きな数珠を触ることができ、とてもいい経験になった。インターネットで調べても知ることができなかったことを見たり、聞いたりすることができたのでとても勉強になった。

